

子宮がんは、がんができる場所によって、『子宮頸がん』と『子宮体がん』の2種類に分かれます。子宮頸がんは子宮の入口にできるがんで、20歳代から30歳代に多くみられ、ヒトパピローマウイルス(HPV)感染が原因で発症します。子宮体がんは、子宮の奥にできるがんで、閉経後の女性に多くみられます。

今回は、がん検診として受けやすい「子宮頸がん」検診で分かることや、子宮頸がんの予防に関する情報を集めてみましたので、参考にしてください。

検診でわかるあなたの体シリーズ NO.5

子宮の検査の種類

視診・内診

当センター
で実施

視診ではおりものの状態や炎症の有無を、内診では子宮の大きさや、卵巣の腫瘍の有無等を確認します。

この検査で分かる病気
外陰部の炎症や感染症
頸管ポリープ 子宮筋腫など



細胞診

当センター
で実施

子宮頸部の細胞を専用のブラシで採取します。時間もかからず、身体への負担はほとんどありません。採取した細胞が、健康な細胞の形なのかどうかを顕微鏡で確認します。肉眼ではわからない初期の病変を発見することができます。

この検査で分かる病気
子宮頸がん



HPV検査

子宮頸がんの原因となるHPVに感染していないかどうかを確認する検査です。

細胞診と同様に採取した細胞で検査を行います。

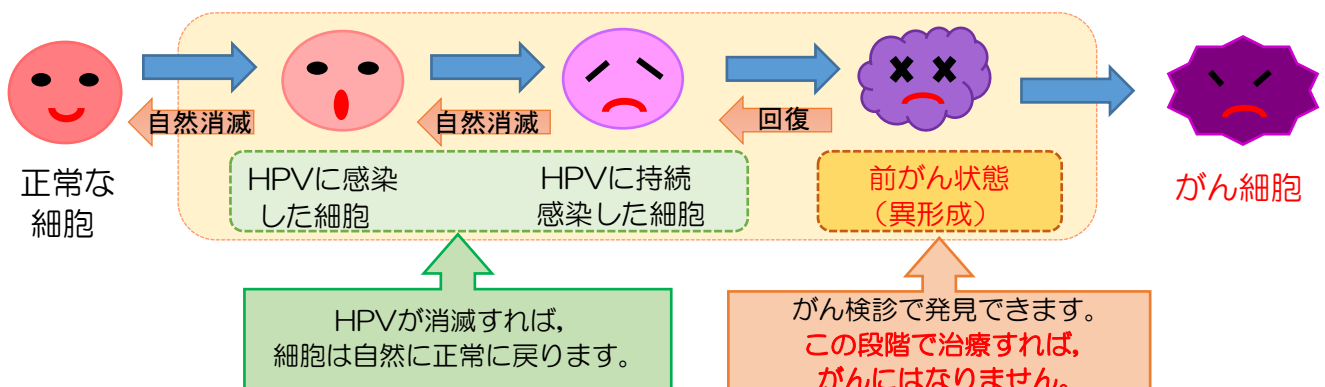
* HPV検査は直接がんの診断につながるものではありません。

この検査で分かること
HPV感染の有無
今後の子宮頸がんのリスク



子宮頸がん細胞が発生するメカニズム

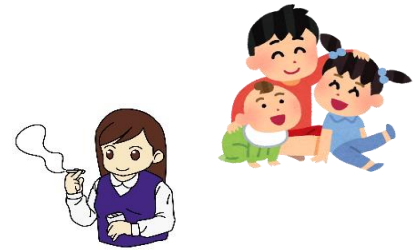
通常は、細胞がHPVに感染しても、免疫力によって自然に排除されます。しかし、細胞が長期間感染すると、「異形成」といって細胞が変化した状態になり、この「異形成」の状態が長く続くと、HPV感染から約10年後には、一部の細胞ががんに進行してしまう場合があります。



子宮頸がんのリスクが高いのはこんな人



- ☆年齢が20代または30代である
- ☆性交経験がある
- ☆喫煙の習慣がある
- ☆妊娠・出産の回数が多い
- ☆月経時以外の出血(茶褐色・黒褐色のおりもの)がある
- ☆子宮頸がん検診を受診していない



子宮頸がん検診コラム

子宮頸がん検査はどのようにして受けることができますか？



20歳以上の女性は、加入している保険によって、健康保険組合や自治体で定期的に子宮頸がん検診を受けることができます。ご自分が加入している健康保険組合、また、国民健康保険の場合は所轄の役所や保健所、保健センター等に問合せのうえ申し込み手続きを行い、検診を受けましょう。



生理中・妊娠中でも検診を受けることはできますか？



月経時や月経直後は細胞に血が混じってしまうため、正確な結果がでない可能性がありますので、避けましょう。妊娠していても検査を受けることに問題ありません。現在では、妊娠初期の検査に含まれていますので、ご確認ください。

子宮頸がんを予防するにはどうしたらいいのでしょうか？



子宮頸がんはHPV感染で発症しますので、性交渉のある女性は誰でも子宮頸がんになる可能性があります。タバコ等の生活習慣を見直し、改善するだけでも、リスクは減るといわれています。

子宮頸がんは定期的な検診で早期発見できるがんですので、是非受診するようにしましょう。



どれくらいの間隔で検診を受診すればいいですか？

少なくとも2年に1度、定期的に子宮頸がん検診を受けることが推奨されています。自治体によっては年に1度受診できる場合もあります(宇都宮市では毎年受診することができます)。20歳を過ぎたら必ず検診を受けましょう!!



平成29年度 10月1日～7日までは『全国労働衛生週間』です!!
～今年のスローガンは「働き方改革で見直そう みんなが輝く健康職場」～
上記の週間に伴いまして、当事業団では産業保健講演会を実施いたします。

日 時：平成29年10月16日(月) 午後2時から3時
場 所：宇都宮市医療保健事業団健診センター 講堂または4階会議室
宇都宮市竹林町968

内 容：「働き盛り世代の健康は財産!!」
※無料で簡易体力チェックができます!

お問い合わせ先：028-625-2213

ご参加ください



公益財団法人 宇都宮市医療保健事業団 健診センター
〒321-0974 宇都宮市竹林町968 TEL(028)625-2213 FAX(028)625-2215
あなたとあなたの大切な人のために年に1度、健康診断を受けましょう!